



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

アイデアや技術が集結

3月2日にイノベーションの祭典、UPDATE EARTH 2024を日本トーターグリーン・ドーム前橋で開催しました。トークセッションやロボット制作ワークショップなどを実施。ビジネスアイデアのコンペティションでは、最優秀賞者に1,000万円が贈呈されました。



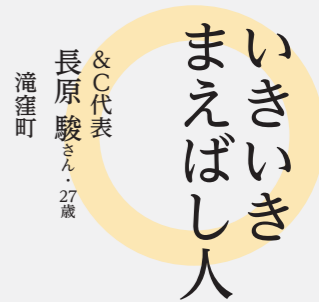
未来へ絆築く文化交流

台湾で今も敬愛される富士見出身の羽鳥重郎と羽鳥又男。二人の母校、石井小が高雄市加昌国民小の修学旅行生を2月21日に受け入れ。レクやかなな箸作りなどで交流を深めました。また、ルーローファンなどの台湾給食を2月8日から28日まで全公立小中学校などで提供しました。



市議会正副議長が決定

市議会の3月臨時会を3月14日から27日まで開催。初日には正副議長を決める投票を実施し、議長に笠原久議員（写真左）、副議長に新井美加議員（写真右）が選出されました。市議会ホームページでは、会議の様子を視聴できます。



命を無駄にせず価値を生み出す

6年間イタリア料理店で調理師として働いていた長原さん。現在はイタリア料理店を辞めて有害鳥獣として駆除した鹿の肉と骨を使った犬猫用のジャーキーを作り販売する事業を始めた。「イタリア料理店での経験から、食材を無駄にしない大切さを学び、料理で使っている肉のルーツを見たいという思いが湧きました。コロナ禍で時間の余裕ができたこともあり、以前から興味を持っていた狩猟を体験し、狩猟免許を取得しました」

が多い現状に直面しました。その命の廃棄を目の当たりにしたことで、何もできない自分がふがいなく感じました。そこで、有害鳥獣として駆除した鹿の命を無駄にせず、大好きなペットの役に立つことができる鹿肉を使った犬猫用のおやつ作りに取り組みむことを決意しました」

現在は鹿肉と骨を使ったおやつ作りがメインだが、今後は皮や角などを使った工芸品作りにも取り組みたいと語る。

「廃棄予定だったものから価値を生み出す。そして、有害鳥獣の駆除で多くの命が廃棄される前に、他の選択肢を提示できるようにになりたいです」

長原さんのアイデアはこれからも広がり続ける。



泉沢町にある須藤さんの牧場は、ホテルがコンセプト。従業員をホテルマンに見立て、乳牛が快適に過ごせる環境をおもてなしする「牛さんファースト」な飼育に取り組みんでいます。牛舎は定期的に殺菌・殺虫することで臭いを抑え、牛が自由に動き回れる

旬な農産物や生産者を紹介するこのコーナー。今回は日本農業賞大賞を受賞した酪農家の須藤晃さん・淳子さん夫妻を紹介します。日本農業賞は農業経営に意欲的に取り組み、優れた功績を上げた農家や団体を表彰するもの。須藤さん夫妻は、応募総数94件の個別経営の部で、最優秀の大賞を受賞しました。



問 農政課
☎ 027-898-5841

スペースを確保。ジャズが流れる中、牛たちは思い思いに過ごします。AIの活用も早くから取り入れ、首についたセンサーで発情期や病気の兆候などを早く検知できるようにしています。

平成22年頃からは地域還元型酪農を目指し、元気ファーム20や地元の稲作農家と共に、良質な飼料作りや堆肥の循環を進めています。また、特別支援学校の実習を受け入れ、実習者だけでなく従業員全員で誰もが働きやすい職場作りに取り組みんでいます。これら一一つの取り組みが評価され、今回の受賞につながりました。

目指すのは、酪農のイメージ改革と、次世代へ継承し地域と共存する経営の形。現在は若者が酪農を通じて叶えたい夢を応援するため、牧場の拡大を計画中です。長年取り組んできた成果が今、花開いてきています。



須藤晃さん(左)と淳子さん(右)。須藤牧場では淳子さんが作るチーズを販売している